

平成22年度

バリアフリー・ユニバーサルデザイン
推進功労者表彰
受賞事例集

Barrier Free
Universal Design

平成22年度 バリアフリー・ユニバーサルデザイン 推進功労者表彰受賞事例集の刊行にあたって

この度、バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰を受賞された皆様に対し、心よりお慶びを申し上げますとともに、皆様のこれまでの御活動に対し、深く敬意を表します。

今年度の内閣総理大臣表彰は、色覚の多様性に配慮したカラーユニバーサルデザイン(CUD)の推進、普及に尽力している事例と、障害者にとっても働きやすい職場環境づくりに尽力している事例の2件が選ばれました。また、内閣府特命担当大臣表彰優良賞の6件、そして同奨励賞の2件につきましても、それぞれ、多くの方々に参考にしていただきたい優れた活動が選ばれています。

今回受賞された10件は、ハード・ソフト両面の向上もさることながら、障害者、高齢者等の弱いところ、困難なところを、何とか支えたいという強い情熱を感じられるものでした。

ところで、現在、我が国では、平成19年に署名した「障害者の権利に関する条約」(仮称)の締結に向け、様々な制度改革に政府を挙げて取り組んでいます。

この改革の実現には、これまでのように、社会参加の制約の原因を障害者個人に求め、精神的・身体的な機能の障害がある以上、様々な社会参加の機会が制約されても仕方がないといった考え方から、こうした制約は社会との関係によって生じるものであると捉える考え方への転換が求められています。

ハード・ソフト両面でのバリアフリー化、ユニバーサルデザインの推進は、まさにその基本となる重要な取組です。

障害のある人とない人が共に生活することが確保された「インクルーシブな社会」こそ、我が国の目指すべき姿であり、こうした社会は、障害の有無やライフステージにかかわらず、だれにとっても住みやすい真の「共生社会」でもあります。

この事例集を通じて、国民の皆様が理解と関心を深め、「共生社会」の実現に向けた心温まる活動の輪が広がっていく一助となれば幸いです。

平成23年3月
内閣府





講評

パリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労軒表彰選考委員会
野村 歆

本推進功労者表彰は、高齢者、障害者、妊婦や子ども連れの人を含む全ての人びとが安全で快適な社会生活を送ることに配慮したハード・ソフト両面のパリアフリー・ユニバーサルデザインに関する優れた取組を広く普及させることを目的として平成14年度から実施され、本年で9年目となりました。候補者の推薦は、都道府県、政令指定市、関係省庁、及び関係諸団体のご協力を得て、48件の多種多様な事例を推薦していただきました。

審査は、例年どおり第一次審査と第二次審査の二段階で行いました。第一次審査は、選考委員全員が推薦書類に対して「内容」「波及効果」「将来性」「利用者の視点」「自発性」「具体性」「継続性」に焦点をあて選考にあたりました。とはいっても、応募事例は「施設整備」「製品開発」「活動」の3つのジャンルがあり、それぞれポイントの重要度が異なっています。「施設整備」事例においては、法制度に定める基準以上の施設内容の評価、企画設計時点における当事者参加、組織全体としての取組姿勢、など幅広い視点で審査を行いました。「製品開発」事例においては、近年は全ての人にとって、できるかぎり使いやすく工夫されたユニバーサルデザイン製品の開発・販売がされるようになってきた状況を踏まえ、開発プロセスにおける当事者参加や組織全体としての取組姿勢、ユーザーの評価、社会への波及効果などの視点から審査を行いました。「活動」事例においては、活動内容の広がりや独創性、先進性、継続性や当事者等からの評価、社会への波及効果などを重点に審査を行いました。

その結果、12件を第二次審査の対象事例として選定しました。第二次審査は、選考委員がすべての候補事例に対して現地に赴き、関係者からのお話を拝聴しながら現場を確かめることによって応募書類からは捉えられなかった情報の収集に務めました。その後、第二次審査委員会での審査は、例年のように困難なものとなりましたが、それぞれの評価を総合的に判断することによってできる限り審査の公平性を保つよう十分に討議を重ね、その後に投票を行い、内閣総理大臣表彰2件、内閣府特命担当大臣表彰優良賞6件、内閣府特命担当大臣表彰奨励賞2件を選考いたしました。

受賞事例には、それぞれ、すばらしい特色がありますが、残念ながら選にもれた事例についてもパリアフリー・ユニバーサルデザイン面で社会に果した功績が小さいとするものではないことを付記しておきます。

最後に、今回の表彰において御協力をいただいたすべての皆様に、心より御礼申し上げるとともに、これを機会に、できるだけ多くの方々が「パリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」ということに関心を抱かれ、社会全体のパリアフリー・ユニバーサルデザインが一層推進されることを願い、全体講評とさせていただきます。



目 次

内閣総理大臣表彰（2件）

特定非営利活動法人 Color Universal Design Organization	1
日本理化学工業 株式会社	2

内閣府特命担当大臣表彰優良賞（6件）

株式会社 サン工芸	3
株式会社 特殊衣料	4
株式会社 日立製作所ユニバーサルデザイン出前授業プロジェクトチーム	5
東京電力 株式会社	6
特定非営利活動法人 ウィズアス	7
有限会社 アイ・シー・アイデザイン研究所	8

内閣府特命担当大臣表彰奨励賞（2件）

あい・あーる・けあ 株式会社	9
刈谷市総合文化センター アイリス	

バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰要領	10
バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰選考委員会委員名簿	11
平成22年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰選考経過	11
バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰推進功労者表彰 過去の受賞事例	12
バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進施策に関する最近の動き	14
関係府省等・都道府県・政令指定都市 担当部署一覧	15